

◆◆◆
宮崎 豊 議員
◆◆◆



◆◆◆
台風24、25号の被害状況
と対策について
◆◆◆

【質】 一般住宅の被害状況は。

【答】 総務課長 新里勝弘

罹災証明の届け出が床上浸水4件、屋根の一部損壊が1件です。恩納漁港周辺、恩納区1件、太田区3件で発生。そのほか恩納校周辺、屋嘉田海岸線の住宅が高潮による床下浸水、自家用車等への被害の報告があります。

【質】 ホテル等、観光関係の被害状況。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

まず人的被害で、ガラスの破損による裂傷が1件、ガラスの破損、水漏れ、浸水による機器の故障、桟橋の破損、造園木の被害等、停電による予約のキャンセルが多く報告されています。また村の関係施設では、海浜公園が高潮によりアルミサッシ、シャッター、エアコン室外機、マリネリジャー器具など大きな被害を受けております。

【質】 農業、漁業関係の被害状況。

【答】 農林水産課長 佐渡山安正

農業分野は、花卉、果樹、畜産、サトウキビ、ほとんどの生産物及び施設等で被害が発生しており

ます。全体額で約5千9百4万5千円という被害状況です。漁業関係は、水産分野ではモズク網等の流出、漁船の転覆、養殖場の浸水、また加工施設等の破損といった形で約1千88万円の被害額、漁港施設では、4漁港合わせて3千4百50万円の被害が出ている状況です。

【質】 高潮による被害が太田で3件、恩納で1件、これに対する対策は。

【答】 総務課長 新里勝弘

大雨等による浸水が何度か繰り返されている認識はして、今後は今回の教訓を生かし、高潮等の避難勧告を速やかに出せる体制を整えたい。

【質】 ホテル等への対策は。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

台風被害から迅速に復興できるように、中小企業セーフティネット資金、災害復旧貸付などの案内をしてきたところです。

【質】 恩納漁港の被害その2日後、役員職員の皆さんが総出で片づけをされて頑張っておられた。農業、漁業の対応や今後の計画は。

【答】 農林水産課長 佐渡山安正

農業分野の対応について、平成30年台風24号対応産地緊急支援事業を活用して、被災に遭われた

◆◆◆
仲田 豊 議員
◆◆◆



◆◆◆
恩納村第3次観光振興
計画について
◆◆◆

【質】 村内の主なホテル収容客、宿泊延べ人数、リーガル、リゾートウエディングは何組か。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

主要18ホテル、294万人宿泊人数で3,811客室。収容人数は1万3,108人。リーガルウエディングは平成29年126組、リ

ゾートウエディング3,709組です。

【質】 第3次観光振興計画に、平成33年まで観光入域数300万人、1.2倍を目標に定めてあり、今294万人の観光入域数では、るかに超える数字になる。どうですか。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

村内に届けられている施設旅館業法で言いますと191件。新たに設けられた民泊新法で、10月現在47件登録され、約230件の宿泊施設になりますので、300万人は超えると認識しています。

【質】 交通環境の整備で、陸路の交通渋滞の観点から、海路から試みた那覇から本部までを結ぶ高速船がありました。実証実験の結果どうでしたか。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

9月1日から10日まで6日間行われ、那覇、北谷、名護、本部経由の利用が161名、那覇から本部の直行便が342名で、来年の4月を目途に本格運行に向けて準備していると報告を受けています。

【質】 客をサンマリーナ経由し降り

て、観光施設、観光地を回る計画は。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

サンマリーナで降りてその後、まずは各宿泊ホテルにお願いしお迎えに来ていただく事と、レンタカー事業者のほうと話をしているところです。今後、観光施設等をつなぐ周遊バスの導入も大きな課題と思っております。

【質】 第3次観光振興計画に、農水産物の向上を諮るため村内リゾートホテルを中心に出荷体制の確立に取り組むとなっております。レタスはどうなっているか。

【答】 農林水産課長 佐渡山安正

現在のレタス販売については、品質の高いA級品はおんなの駅を介して直接仲卸業者へ、コープおきなわや村内ホテル等へ納品されています。地産地消を推進するため重点品目として安定した供給体制の確立、さらなる販売の拡大に取り組んでまいります。

◆◆◆
恩納村観光危機管理計
画について
◆◆◆

【質】 避難の指揮系統はどうなっているか。

農家の方々に対応したい。今回、主な被災原因が強風による被災が多い。やはり農地防風林の重要性をさらに周知して、普及活動にも取り組んでまいりたい。また、喜瀬武原地区においては、長時間の停電で菊が出荷できず大分苦勞なされた。そういった農家負担を軽減できるような施策も検討してまいりたい。水産分野について、国の漁港災害復旧事業や村単独事業で早期の復旧に取り組んでいる状況です。今後は、台風襲来時期に合わせて過去の被災状況等の写真を掲載するなど、広報紙を使って、村民にも啓発、周知していきたい。

【質】 今後の対応、村としてどう挑んでいくか。

【答】 村長 長浜善口

今回の台風、対策本部を設けて挑んだが、本当に災害には勝てないなど、恐ろしさを感じたところ。『災害は忘れたころにやってくる』という言葉もありますので、引き続き、村としても災害に対する強化を図ってまいりたい。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

危機が発生した場合は、観光危機管理計画による対策本部を設置し、観光協会、関連事業者等や商工会と連携体制を構築し、観光客への情報発信、避難誘導、安全確保等に充てていきたいと考えています。

◆◆◆
オーバートーリズム
(観光公害) について
◆◆◆

【質】 オーバートーリズムにどう対処するか。

【答】 商工観光課長 宮平 寛

観光客が大幅に増加しますと、地域住民に負担と悪影響を与え、生活や地域環境を破壊している可能性が有るため、対処法を考える必要がある。観光庁は客と地域住民の生活環境の調和を図り、共存、共生を目的に持続可能な観光推進本部を設置されています。県の観光推進ロードマップで質的転換に向けた取り組みがうたわれ、本村も今後、国、県の動向を見極め、現在、村は海を中心に観光はにぎわっていますけれど、山間部で県民の森も含め、山間部の物産も必要ではないかと考えています。